



かみさと

議会だより

No.73

平成28年12月



一人暮らし高齢者宅（希望者宅）へ作りたてのお弁当を
宅配するハッピーランチサービス
調理ボランティアの心のこもったお弁当!!



上里町マスコットキャラクター
こおぎっち

議会映像
配信中!



9月定例会 平成27年度決算を認定!

- 決算審査報告 主な課題と論点! ④
- 9月定例会一般質問に8人 ⑤
- 議会閉会中の委員会活動報告 ⑬

記事の一部に読みやすい「ユニバーサルデザインフォント」を採用しています。

第4回 9月 定例会

9月2日～21日



◆平成27年度 決算を認定！ ◆教育長に下山彰夫氏を任命

9月定例会は、9月2日に開会され、議員8名の一般質問と平成27年度決算認定を中心とする町長提出議案16件を審議して21日に閉会しました。定例会で審議された内容をお知らせします。

◆ 条 例 ◆

議案第31号
上里町職員の分限に関する手続及び効果に関する条例の一部を改正する条例について

要旨 職員の失職に関する特例を定めるものです。

原案可決

議案第32号
上里町家庭的保育事業等の設備及び運営に関する手続きを定める条例の一部を改正する条例について

要旨 建築基準法施行令が改正されたことに伴うものです。

原案可決

議案第33号
上里町放課後児童健全育成事業の設備及び運営に関する基準を定める条例の一部を改正する条例について

要旨 学校教育法等の一部を改正する法律の施行に伴うものです。

原案可決

◆ その他 ◆

議案第34号
上里町道路線の廃止について

要旨 終点が延長される新規道路認定に伴い、廃止するものです。

原案可決

議案第35号
上里町道路線の認定について

要旨 県道児玉新町線の新道建設及び既存町道の終点延長に伴い、認定するものです。

原案可決

◆ 人 事 ◆

議案第40号
固定資産評価審査委員会委員の選任について

要旨 委員である青野英雄氏が、平成28年9月30日をもって任期満了となるため、後任として藤嶋市雄氏を選任するものです。

同意

議案第41号
教育委員会教育長の任命について

要旨 教育長である下山彰夫氏が、平成28年9月30日をもって辞職するため、下山氏を教育長に任命するものです。

同意



補正予算

議案第36号
28年度一般会計補正予算

概要 歳入歳出それぞれ3億3628万5千円を追加し、予算総額を歳入歳出それぞれ92億4757万円とするものです。主な歳出の補正内容は次のとおりです。

・いきいき福祉基金積立金 2億円

・道路新設改良事業 1850万8千円

・農業振興事業 4415万4千円

・公民館管理事業 3300万円

原案可決

■この他に、国民健康保険特別会計、介護保険特別会計、水道事業会計の補正予算が提出され、原案のとおり可決されました。

平成27年度決算審査報告 ~すべて認定すべきものと決定~

平成27年度の決算額等については、『広報かみさと10月号』に詳しく紹介してありますので省略し、『議会だより』では各常任委員会における決算審査についての委員長報告（抜粋）を紹介します。



総務経済常任委員会
委員長 戸矢隆光

コミュニティバス「こむぎっち号」について従来の巡回バス3台から4台になってはいるものの、利用者が増えていない。バスの停留所の位置が集落から外れており使いづらく本庄市の病院までバスルートを伸ばすことが出来ないのかなど、今後も利用者の利便性向上に努力をお願いしたい。

各地域には自衛消防隊はあるものの自主防災組織について活動しているところは皆無であり、早急な組織づくりが必要ではないかと思われまます。防災備蓄用品については、年々数量が増えてはいるものの地域防災計画の数量には届いておらず早急に見直しを検討していただきたい。

平成27年12月には町民待望の上里スマートインターチェンジが開通。供用開始から数ヶ月が経過をしておりますが月々の乗降車両台数も増加をしているとのことであり、今後は産業団地の造成など企業進出など見込まれ、周辺整備が必要不可欠となってくることも予想されますので早期の計画的な整備を要望します。

県道上里鬼石線の児玉工業団地に通じるアクセス道路については、平成27年度に用地測量を実施して一部用地買収を実施したところであるが、現在利用している工業団地に通じる道路は、幅員も狭く交通量も多く危険なため関係機関への要望活動など展開し早期の開通を期待する。

水道事業については、平成27年度より業務委託により未収金対策を実施し、約1210万円の納付がありました。今後も引き続き水道料金の未納者解消について努力をお願いします。



文教厚生常任委員会
委員長 齊藤 崇

公立保育所の建設計画についてはプロジェクトチームの方向性が報告されたところですが、建設に向けて始動して頂きたいと思えます。

放課後児童クラブの運営については待機児童も発生しており、働きながら子育てできる環境整備を更に進めて頂きたい。また官民における保育料及び経営上の格差を解消するようお願いします。

保健センター事業では建物の経年劣化が進んでおり、今後の整備については少子高齢化が進む中、複合化など様々な角度から検討して行く必要がある。

国民健康保険特別会計では保険給付費や後期高齢者支援金などが年々増加し、一般会計から補てん分が繰り出されてきたところ。来年度以降、県から「国保運営方針」が策定され納付金の配分額や保険料率が示される訳ですが既存の保険料との兼ね合いなど、十分検討し町の運営について慎重に検討を進めていくことをお願いします。

当委員会では学校訪問による施設の現状について視察、上中を除く各小中学校で経年による劣化が見られ、特に雨漏りは児童生徒の授業への影響が大いに危惧されますので、一刻も早い修繕を強く要望します。いじめ問題、熱中症対策等早期発見、未然防止の観点から重大事態が起こることのないよう強く要望するものです。

地域包括支援センターの役割と組織、業務内容、人員配置等十分な検討を行い、地域包括ケアシステムの構築や多職種連携により、情報提供や関係機関との連絡、調整など効率性の高い地域包括支援センターの業務運営を望むところです。

平成27年度決算に対する各常任委員会の意見と要望(抜粋)

決算審査を9月8日より9月14日までの5日間に渡り、担当する課長及び担当職員の出席を求めて、歳入歳出決算書及び付属資料並びに決算説明書をもとに、各課の決算内容の説明を求めました。

主な課題と論点！

総務経済常任委員会

災害時の備蓄は十分か？

問 食料はどれくらいの人分が備蓄されているのか？賞味期限切れの備蓄品などはどうしているのか？

答 クラッカー等が6,500食、1,100人分。賞味期限間近の備蓄品は桜まつり等で配布しました。また毛布752枚、防災アルミシート1,000枚、簡易トイレ1,400回分、保存水1,200本です。

こむぎっち号の停留場等の見直しは？

問 停留所の見直しは行うか？利用しやすい場所に停留所を設けたほうが利用者は増えるのでは？

答 警察協議が必要なため道路状況によっては設置が難しい場所がある。ルート設定についても同様の調整が必要です。住民全員が納得のいく箇所への設置は、なかなか難しいと思うがそれぞれの事情を考えながら総合的に検討していきたい。



総務経済常任委員会による現地視察

有収水量が減っているのはなぜか？

問 給水人口が減っているのに給水戸数は増えている、有収水量が減っているのはなぜか？

答 核家族化が進んで単身者も増えている。アパート等での使用者が多くなっていて、加入が増えたから使用量が増えるという状況ではなく減ってきている。また、工場での使用が大きく減少しピークの平成23年度は9,630万円から平成27年度では5,370万円と、約4,300万円減少しました。営業用の使用水量の伸びも停滞しています。

プレミアム付商品券について

問 30%のプレミアムがついたメリットは大きかったが、消費が上向いたことは、どこから押し量られるのか。

答 商工会のアンケート調査によると、商品券の入手がきっかけとなった商品・サービスの購入は、商品券での支払いで、5,109,000円、商品券での支払いにあわせ追加支出した現金は6,802,000円、普段の買い物を商品券で支払った金額は、18,478,000円となります。商品券の購入がきっかけとなって商品・サービスを購入した商品券の割合は21.8%、また、この金額に対して75.1%の現金による追加支出が行われたという結果が出ています。

文教厚生常任委員会

第3子への援助の効果は？

問 町の出生率1.05に対する第3子への援助は効果があるのか。第2子からの事業のほうが効果があるのではないか？

答 第3子以上の世帯の経済的負担が多いため、まずはその壁を取り除く事業を行います。国の制度では、同時入所の場合、2子目が半額となりますが、町では同時入所でもなくとも3人目を無償としております。

各事業の周知方法は？

問 つどいの広場や、おむつ購入費補助事業などの周知方法は？また児童館の周知についても努力不足では？

答 広報、ホームページで周知しています。おむつ購入費補助事業については、保健センターの母子手帳配布時、出生届時にチラシの配布を行っております。また、ホームページはリニューアルを予定しており、子育てする若いお母さんが見やすいものをつくりたい。

学力調査が県平均よりも低い？

問 学力が県平均以下であることに対するの考えと、その原因と今後の取組は？

答 県の平均よりは下回るが、県との平均の差が縮まっており、学力は確実に伸びている。統一した指導方法を研究し、教員の指導力が向上している。



委員会室で行われた決算審査風景

検診受診率向上のための工夫は？

問 検診受診率向上のために何か工夫をしていますか？

答 『いきいきスタンプラリー事業』を実施しています。対象事業を受診したり健康教室に参加してスタンプを集めてもらい、賞品と交換しています。協力課は高齢者いきいき課と生涯学習課です。



仲井静子

問 推進センターが男女共同参画の拠点として真価を發揮する為には、質の高い事業や活動を展開すべき!

答 男女共同参画社会の実現に向け、さまざまな充実した事業を積極的に行っていきたい

質問 1 男女共同参画推進センターについて

問 男女共同参画推進センターを有効活用する為の今後の取り組みについて。

答 町では、男女平等、女性の地位向上からスタートし、現在に至る男女共同参画に関する取り組みについて、町全体でこれからも時代の変化に合わせて行きたい。

問 全国的に見ると、拠点施設としての活動が活発な推進センターは、機能を發揮する専門性が必要の為、スタッフの研修体制が整っている。町は専門性をどう担保するのか。

答 近年は経済分野の観点から、女性の活躍を求める動きが活発になっている。このような時代の流れに対応する必要もある。各種研修等に職員が積極的に参加すると共に、関係機関・団体に情報提供を行う。

問 男女共同参画推進事業及び

推進センターに関する住民への周知について。

答 広報、ホームページやSNSをより積極的に活用し、広い世代に積極的に働きかけたい。※人と人のつながりを支援するインターネット上のサービス。

質問 2 循環型社会の取り組みについて

問 平成28年度の小山川クリーンセンターへの町の負担金が、年間1億272万7千円で赤ちゃんからお年寄りまで、町民一人に換算すると、年に約3300円税金が投入されている。今後老朽化したセンターの修繕費に財政投入が見込まれる事を考えると、ゴミの減量化と言ふ事は環境問題だけでなく、財政面からも全町を挙げて取り組むべき。

答 町民や事業者に対し、ゴミを出さないリデュース、使えるものは再利用するリユース、缶、

ペットボトルなどの資源は再生利用に努めるリサイクル、これら3Rに関する理解と努力を求め、又その活動を支援する、循環型社会の形成に向けた取り組みを推進していく。

問 回収された資源物は有価物として売却され、つまりゴミがお金に生まれ変わるわけですが、センターに持ち込まれた資源物の売却額は。

答 平成27年度の回収した資源ゴミの売却額は、児玉郡市全体で701万7千円、上里分の売却額は164万3千円で児玉郡市全体の23%を占めている。

問 生ゴミの重量のうち80%が水分、そのまま排出すると多くの水をゴミとして処理する事となる。各家庭から排出される生ゴミの水切りを周知し処理費用削減を。

答 生ゴミの水切りや乾燥の有効性は、生ゴミの腐敗を防ぎ、悪臭の軽減、ゴミが軽くなる事で収集運搬やゴミの焼却効果が向上し、経費削減が期待できる

と共に、温室効果ガスの排気量を抑える。各家庭でのひと手間が大きな効果をもたらす。町としてもより一層その広報に努める。

問 食品ロスについて。

答 消費者庁の発表では、家庭における一人当たりの食品ロスは茶碗に半分の御飯を毎日捨てていると換算され、日本国内に於いて多くの食品が廃棄されている状況に驚きを感じている。食品ロスを減らすには、各家庭の取り組みが重要であり、町としても、食品ロスのさらなる削減について、広報かみさと、町のホームページを利用し、町民に広く啓発していく。



資源ゴミの分別収集にご協力を!

岩田智教



問

上里町の児童虐待への対応は？

答

関係機関と連携し安否を確認し対応している

1 児童虐待について

問 上里町の児童相談所へ通報のあった児童虐待の件数と児童の年齢について、また虐待があった場合の学校の対応について。

答 平成27年度は45件で、3歳未満児が16件、3歳以上未就学児が9件、小学生が13件、中学生が6件、高校生以上が1件でした。

答 教育長 虐待が発見された場合は、該当児童・生徒から聞き取りを行い、上里町に通告をし、通告後は、該当児童の出席状況、登校時の学校生活の様子、不自然な外傷がないか等の観察を行い、関係機関へ情報提供を行っている。

問 児童虐待の種類はどのようなものが多いのか。

答 主要四相談として、身体的虐待が28件、ネグレクト虐待が

27件、心理的虐待が25件、性的虐待が3件となっている。

問 上里町の児童虐待の対応策はどのようなものか。

答 虐待が発生した場合、本庄警察署と確認をし、子育て共生課が対応する。また、保健師による乳児家庭全戸訪問、各種健診時の観察と状況報告。保育所の保育士による目視確認や状況報告。小・中学校の報告に対する家庭訪問による対応を行っている。虐待と思われる通報には、48時間以内の子どもの安否を目視で確認できるよう、訪問をしている。

2 学校給食について

問 上里町の学校給食で残食（食べ残し）はどれほどあるのか。

答 教育長 本庄と上里の学校給食の残食を合わせた量は、御飯の残食量は一日平均約141kg、残食率は16・5%。パンの残食量は一日平均約5・6kg、残食率は約5・8%。食缶^{*}で提供した給食の残食量は、一日平均167・9kg。

※調理済みの料理を保温しながら運搬するための容器

問 残食を減らすにはどのようなことを工夫しているのか。

答 教育長 給食の配膳量を個々に応じて調整し盛りつけ、完食できるように配慮。また、栄養教諭が、小学校一年生、三年生、中学生を対象に、「給食について知ろう」、「食べ物の働きを知ろう」など、食に関する指導も行っている。

問 食物アレルギー等による除去食、代替食はどのように行われているのか。

答 教育長 平成28年度は、6人の児童・生徒に卵、乳のアレ

ルギー対応食を提供。それ以外のアレルギーを有する児童には、加工食品の原料配合表、明細献立表を、二週間前に給食センターのホームページ等で情報を提供。さらに、主食のパン、小袋チーズ、飲み物等にも広げられている。

問 宗教上食べることが禁止されている牛肉、豚肉については、上里町の小・中学校ではどのように考え、対応しているか。

答 教育長 現在取り組みがされていない。



給食の食べ残しを減らすには...

飯塚賢治



問

側溝清掃を数人いれば実施できるよう研究を！

答

地域での側溝清掃がやりやすくなる方法について検討していきたい

1 被災者台帳「被災者支援システム」の導入・運用について

問 大規模災害について日本の中で絶対に安心というところはない。全国でも被災者台帳への認識が高まりつつある中、作成となると必ずしも進んでいない。町として被災者台帳についての考えは。

答 被災者台帳については、今後地域防災計画の見直しとあわせて検討を行い、被災者の援護を総合的かつ効率的に実施できるようにしたいと考えている。

問 災害による被災者が出た場合、住民基本台帳をベースに被災者台帳を作成し、り災証明書、の発行、支援金、義援金の交付、援護物資の管理、仮設住宅の入居など被災者支援に必要な情報を一元的に管理する被災者支援システムを早急に導入すべきと私は考えるが町の考えは。

答 被災者支援システムは主なもの2つあり、両システムは一長一短がある。導入については、県内状況等を勘案し、調査研究をしていきたい。

2 雨水対策について

問 グリラ豪雨のような集中的に降る雨の場合、激流状態となる箇所、特に通学路になっている箇所は優先的に改善が望まれるが。

答 先日の台風後、町道の路面が水たまりとなる箇所が見受けられた。小さな水たまりであれば部分的に補修しているが、広範囲となるとアスファルトの打ちかえや路盤部分の改良が必要となる。全ての箇所を舗装打ちかえることは予算上の制約もあり通学路や交通量の多い主幹道路を中心に、計画的に舗装改修に努めたい。

問 今後、雨水対策として、住宅地内の側溝清掃を希望する行政区が多くなると予想される。数人いれば実施できる、力もあまり必要としないやり方を研究願いたい。

答 各行政区の皆さんが清掃活動に尽力いただいております。地域での清掃活動をサポートできるよう町として



て側溝清掃がやりやすくなる方法について検討していきたい。

問 側溝清掃は側溝ぶたを上げる作業が重労働であり、一人でも上げられる専用業者が使っている機材を購入して貸し出してもらうことについて。

答 コンクリート製の側溝ぶたは60キロ程度の重さがあり、ふた開けに多大な労力が必要となっている。より簡単に開けられる二輪車付きのテコを応用した機材等導入を検討していきたい。

3 空き家対策特別措置法施行後の放置空き家について

問 私の目からは、どうしてもこの家がこのままになっているのだからと思う建物はいくつか存在する。管理空き家件数に対し、何件くらい行政指導及び勧告が行われたのか。

答 空き家関係の相談件数は、平成25年度が17件、平成26年度が22件、平成27年度が30件と増加傾向にある。現地を確認、管理不全な状態の場合は適正管理通知を送付している。行政指導勧告は行っていない。

問 空き家だけでなく、空き地やごみ屋敷などの地域住民が力を合わせて片付けようとして正式に町へ依頼した場合、立ち入りの許可等とってもらう事は可能か。

答 近隣の方々がボランティアで片付けを行っていただけとすれば、所有者に対し地域住民の意向を伝えるなどの努力を、町として当然やっていかなければならないと考えている。

新井 實



問

空き家の活用方法について

答

埼玉県北部地域地方創生推進協議会空家活用部会で検討

質問 1
朝型勤務で定時退庁促進について

問 埼玉県内の自治体で時間外労働を削減し、ワークライフバランスを向上させるため、朝型勤務を拡大する自治体が増加していることについて。

答 上里町の時間外勤務は、突発的な業務もありますが、年々職員の時間外勤務は増加傾向にあり、平成27年度の役場全体の総時間外勤務は1万4679時間であり、管理職を除く職員1ヶ月当たりの時間外勤務時間は8.6時間でした。議員の質問にあった夏場の試行実施における朝型勤務については、職員の勤務実態や個々の家庭活動を十分把握しながら、町の課長会、職員組合との話し合いを行うことで意見を聴取して、さらに関連自治体の事例等を踏まえ、調査研究していきたい。

質問 2
空き家の活用方法について

問 少子高齢化で空き家の増加が全国的な問題になっており、

その活用方法及び有効活用について。

答 上里町では、平成28年3月、全空き家の現地確認を行い、空き家の件数は159件で総住宅件数の約1.3%になっています。上里町でNPO法人を立ち上げてはどうかという質問ですが、現在、北部地域の7市町と県を交えて、埼玉県北部地域地方創生推進協議会空家活用事業部会が設置され、空き家バンクと空き家有効利用について各種検討を行っています。空き家バンクと空き家バンクサイトの開設準備を行っており、埼玉県宅地建物取引業協会や全日本不動産協会埼玉県本部と協定を締結し、今年度中の運用開始に向けて準備をしています。

質問 3
地方都市の水道料金の見直しについて

問 人口減で負担者が減る一方、老朽化した水道管の取り換え費用がかかるため、地方都市で水道料金の見直しが相次いでいることについて。

答 上里町も昭和40年代に布設



老朽化が進む水道管

された水道管が大半となり、老朽化が進んでいます。統合以降の料金改定に関しては、平成11年度に約31.8%の改定をし、平成16年度には、約11.7%、そして平成22年度には約14.8%の改定を実施し、現在に至っています。町の基幹水道管の延長は約30kmあり、耐震適合性のある管路は7kmとなっています。残り23kmの耐震適合した場合は、約20億円の費用が必要と考えられています。料金の見直しについては、老朽化した水道管の更新や耐震化を進める上で重要な課題であることは認識しています。今後は、経営戦略を検討していく中で、収支のバランスを考えながら将来の方向性について調整し

質問 4
大地震における避難所外支援について

ていくと共に、水道事業の財務情報や旧配水管の更新の重要性などに関してはホームページや広報等で町民に知らせていくことにより、水道事業のおかれている現状や今後の課題について理解いただけるよう勤めていきたいと考えています。

問 大地震で、車中泊やテント暮らしの避難者が多数出た時、避難所以外の場所に避難する人への支援を地域防災計画に明記することについて。

答 議員質問の長岡市の地域防災計画では、避難所外避難者を町内会や自主防災組織の協力を得て把握するに努めることとなっており、またエコノミークラス症候群の予防については車中泊避難者に呼びかける計画になっっているようです。車中泊など避難所外避難者への支援を地方防災計画への明記することは、県内自治体の状況を見ながら検討していきたい。

植原育雄



問

道路側溝のレベル(高低差)を測り、機能の改善を!

答

改善すべきところは予算の関係もありますが、できるだけ早く実施していきたいと考えています。

質問 1 上里町の交通安全対策について

問 上里スマートインターチェンジと国道17号線までの接続道路の県道「児玉新町線」勅使河原地内の拡幅等工事の進捗状況並びに国道254号線に通じる接続道路「リバーサイドロード」の今後の整備予定について。

答 県道児玉新町線は上里スマートインターチェンジから国道17号線への接続道路として重要な路線であり、県にしっかりと要望するとともに町も全力で協力させていただきます。「リバーサイドロード」の用地は上里西部土地改良事業により生み出されていますが、碎石工場の用地買収が必要な区間が残っています。リバーサイドロードと並行する町道勝場藤木戸線は長幡小学校の通学路であり、こちらの歩道整備等を先に進めたい。

問 町の職員、郵便局の職員や毎日町内を宅配等を業務として

いる方をお願いして、道路の破損箇所や危険箇所を報告して頂くと交通事故防止対策について

答 町では郵便局職員や町の職員等からの報告により道路補修をしています。宅配業者等からの情報提供についても検討したい。

質問 2 上里町内中学校の部活動について

問 町内中学校の部活動の現状について。

答 教育長 生徒達はやりがいを感じている。保護者ももっと活動して欲しい、休みを増やして欲しい等がある。教員は部活動につき負担を感じることもあるが、生徒の成長に不可欠であり、前向きに取り組んでいる。

問 地域から専門的に指導ができる「外部指導者」について。

答 教育長 部活動の指導経験がない教員、又、経験年数が少ない若手教員に外部指導者の活用、指導者講習会を通して負担

軽減を図っている。国では部活動の指導、助言、単独での引率を行う「部活動指導員」の法令化を検討しています。

質問 3 上里町の排水等の対策について

問 道路側溝のレベル(高低差)を測り、改善する点について。

答 古新田地内の道路側溝について、レベルを測り、改善すべきところは予算の関係もありますが、できるだけ早く実施していきたいと考えています。

問 道路側溝清掃等に関して、地元地区住民に対しての助成金について。

答 隣の美里町では「町づくり助成金」という形の中で、いろいろな部分で助成金を出しているようです。

「町づくり助成金」が、どういう形の中でだせるか検討したい。



整備が進む上里SI西側の「リバーサイドロード」

問 上里町内の「内水の現状と対策」について。

答 近年では、ゲリラ豪雨により地形的に低いところや排水機能が弱い箇所でも道路冠水がおこっている。平成26年度上里町市街地雨水排水対策検討業務では、地下浸透等が可能な貯留施設等により下流側への雨水の負担を生じさせない手法が望ましいとの結果になり、対応して参りたい。

沓澤幸子



問 カバープランツ^{※1}を活用した雑草対策を！

答 用水路のカバープランツは、やる方向で速やかに検討したい

質問 1 町の景観と環境改善について

問 カバープランツを活用した農業用排水路の雑草対策と法面の浸食防止での検討状況と、通水路の雑草も景観の悪化に加え通行の障害になり危険なので、ヒメイワダレ草や芝桜などを植栽し安全で美しい通水路にすること。

答 カバープランツは、やる方向で速やかに検討していきたい。通水路のカバープランツも、将来的には経費の削減につながることも考えられるので総合して検討してみたい。

※1低草丈の植物で地面を覆い雑草を抑制する。

問 地球温暖化が進む中、歩いて生活する子ども達の健康を考え、通水路にポケットパーク^{※2}設置し木陰づくりを。

答 ポケットパークが出来る場所はあるが管理の難しさがある。県道勅使河原本庄線は地権

者の土地境界が決まらず用地買収に至っていない。境界が確定した場合は協力していきたい。

※2道路整備や交差点改良によって生まれたスペースにベンチを置くなどして作った小さな公園。

問 農地への不法投棄や個人の敷地内に山積するごみ問題が何年も改善されません。「空き家条例」の様に効力のある条例を作ることに。

答 農地に残土や建設廃材等の堆積は2件、個人の敷地内に山積するごみ問題は4件把握し、文書や対面で指導をしてきました。条例制定については、先進事例を参考に取り組みたい。



カバープランツの成功例

質問 2 貧困対策と子育て支援策について

問 子どもの貧困問題が深刻です。保育料に寡婦控除のみなし適用を行い、婚姻歴の有無で差別しないように。

答 保育料は本年度から国の制度により負担軽減が行われています。婚姻歴で差がつくのは解決しなくてはと思う。

問 就学援助制度の説明資料は準要保護の基準が解り易いものに改善しましたか。クラブ活動費、生徒会費、PTA会費を給付対象に出来ないか。制度については、年度途中でも「学校だより」等を通し繰り返し周知すること。

新入学用品等の支給は準備する3月に出来ないか。

答 教育長 校長会を通じてこまめに周知を図っていきたい。所得等の記載も早急に検討し改善したい。クラブ活動費等の給付は難しい。新入学用品は現在6月支給だが、支給要件である入学の事実を確認し最短で支給可能な時期を検討したい。

問 学校給食費についての全日本教員組合調査では1032自治体中、全額補助45、半額以上の補助64、一部補助199の自治体が実施。町長も昨年3月「たとえ半額でも何とかできないか検討してみたい」と答弁しています。その考えは。

答 学校給食法に規定されている、食材費は保護者負担の考えに変更はない。提案の1人2000円を補助すると、年5530万が必要であり、本市との広域連携からも難しい。

問 児童館利用がクラブ生中心のため、町長は「今後の児童館のあり方も検討したい」と答弁していました。検討内容は。

答 児童館の年間利用者数は約6万人で推移し、放課後児童クラブ生の利用が7割です。皆さんが興味を頂ける事業を取り入れていきたい。

他に、保育所建設と民間児童に対し、施設運営費の負担が保護者に及ばない補助を求める質問をしました。



戸矢隆光

問

公共施設の適正な配置と効果的・効率的な管理運営など今後の町の方向性について

答

各施設の現状や課題を整理して修繕・改修、施設の長寿命化や統配合など個別な建物を今後検討

質問 1 公共施設について

問 今後の人口予想を見ると減少し集会所施設を利用する人も少なくなり、古くなった施設の修繕費は改善要望や耐震工事を含めて多くなることが予想され、隣接する公共施設を開放したり2つの施設を統合し魅力ある施設を建設する方法など考えられ、公共施設の適正な配置と効果的・効率的な管理運営など今後の町の方向性について。

答 今後の財政状況を踏まえる改修・修繕だけではなく施設の統廃合や複合化、再配置の検討も必要と考えており公共施設等総合管理計画の策定を進めていく中で各施設の現状や課題を整理して効果的な管理運営方法など町の将来あるべき姿の実現に向けて検討を進めた

い。

問 施設の個別計画を早急に明確にしておく必要は。

答 耐震状況や利用状況、緊急

質問 2 図書館について

性など、施設ごとの状況把握をしながら修繕・改修、施設の長寿命化や統配合など個別な建物を今後検討していきたい。

問 図書館については、住民サービスの向上・効果的な運営による運営経費の削減を図ることを目的として、町では初となる民間企業による指定管理者制度を導入し、本来の目的である民間の能力や活力・ノウハウをどの様に運営に生かしているのか。利用者の反応は以前と比べてどうか。これまでの導入成果と今後の運営について。

答 教育長 1年間の開館日は1.16倍に増え開館時間も以前と比べて30分早く開館し30分遅く閉館している。各種教室を充実し27年度の登録数も約9.2パーセント増加をしている。人件費も25年に比べて27年は390万安くなっている。職員の数について

も指定管理者制度導入以前に比べて2名増員となっている。

問 町でも出来るものは委託をするのもいいのでは。

答 公民館などこのような制度はなじまない。体育館や児童館などは管理運営面など他課をまわりたいので難しい面があるので今後検討していきたい。

問 農業用水は年間通水されており、十年位前より給水栓の蛇口より漏水し水路が水浸しや土側溝の土砂が溜まり排水の役目をなされておらず、住民が困惑し何らかの早急な改善も必要ではないか。

質問 3 農業施設について

問 農業用水は年間通水されており、十年位前より給水栓の蛇口より漏水し水路が水浸しや土側溝の土砂が溜まり排水の役目をなされておらず、住民が困惑し何らかの早急な改善も必要ではないか。

答 修理費を補助することや土側溝の管理方法など今後の検討課題として土地改良区、活動組織及び本庄農林振興センターと協議の上取り扱いは検討していきたい。



新規イベントの図書館キッズデー



解体が決まった中央公民館

齊藤 崇



問

老朽化したり木の枝等で見にくい防火水槽の標識は？

答

老朽化している物は補修及び新しいものに交換、繁茂している枝等は所有者に協力してもらい伐採していく

質問 1 町の農業施策について

問 高齢化する就農者に対する町の対策は。

答 高齢就農者は町の就農者が減少している中、農業生産活動の維持、継続と重要な役割を担っており、今後の町の農業の発展を考える上で、次世代の担い手育成が不可欠だ。町としては農業経営の効率化、農業所得の安定化等について推進するとともに、高齢就農者がこれまでに培ってきた技術や知識を次世代に継承し、魅力的な農業の推進に努め、次世代の担い手育成につながるよう推進していきたい。

問 若者の担い手、新規就農者の育成は。

答 本庄農林振興センター、埼玉ひびきの農協、農業共済組合、

児玉郡内の市町と連携し、担い手及び新規就農者の育成、確保を目的とした平成22年度より『児玉地域明日の農業担い手塾』を設置しており、これまでに3名の方が参加しています。今後農業生産法人の果たす役割はさらに重要になると考え、町としても積極的に育成支援をしていきたい。一方、認定農業者組織の強化促進について、現在123の経営体が認定農業者となり、農業経営の改善を目的としている就農者が情報を共有し、連携を深めることで経営を合理化させ経営所得の安定をもたらすことが担い手育成につながるものと考えてる。

問 経営の安定化、第6次産業も視野に入れた対策は。

答 本町ではトマト、彩さい牛、武州和牛、ポインセチアが指定されている。本町の農産物のP

R活動を推進し、高品質である上里農産物を圏域内外に周知し、ブランド力を高め高収益につながるよう推進していく。第6次産業については自然や市場価格に左右されることなく安定的な収入が得られると考えられる。また現在策定中の『上里農業振興プロジェクト』の中で調査研究をしていきたい。

問 農地中間管理事業推進の今後について。

答 町だけでなく農協や公社、県と連携して中間管理事業をPRし、推進員の増員を検討して意欲ある農家へ中間管理事業を通じて農地を転貸していきたい。

質問 2 防火水槽の維持管理について

問 道路下に埋設されている防火水槽は。

答 経年でどうしても陥没等が起こるが、町職員の通勤時等やパトロールで発見した箇所についてはタイムリーに補修している。水槽の水位等は広域消防で点検している。

問 半世紀以上前に民地内に設置されている防火水槽は。

答 地権者から土地の返還や撤去の要望等あれば撤去して行く。撤去費用の3分の1を補助金として交付する。また、消防水利が必要な箇所には地下式消火栓の設置をしていく。



枝木にかくれてしまった防火水槽の標識

○十日町市 『エコポイント事業』

環境対策の一環として様々なエコ対策の活動に対しポイントを集め、指定された台紙に協力した際に押印してもらい集まった台紙の枚数によって暮らしに役立つゴミ袋などの商品と交換できる事業。

- スーパーでレジ袋を断る：1ポイント
- 使用済天ぷら油を指定回収場所に出す：2～3ポイント
- 行政主催のグリーン作戦や講演会への行事参加：5ポイント
- 環境家計簿の作成：20ポイント 等

これらの取り組みにより新潟県内マイバッグ持参率第一位になり、これらの取り組みには大型店から個人商店まで市内の約200店が参加。

○見附市 『災害対策とその効果』

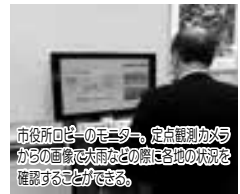
上流部で24時間雨量423ミリが降った平成16年7月16日の豪雨。床上床下浸水被害約2000棟以上。災害対策本部の設置経験がなかった行政。これらの復旧に追われている中で追い討ちをかける様に襲った10月の中越



地震。このときの様々な被害から市独自の各種の減災対策。

- 災害業務の担当は、市職員全体で輪番体制によって行う。
- 田んぼダム・道路の排水・防災無線のサイレンの音色の工夫。
- 大学の研究機関と構築したシステムの活用・気象情報会社との連携。
- 自主防災組織の整備など。

減災対策を施した後の23年7月の災害では、このときの経験を踏まえ大きく食い止めることが出来き、床上床下浸水被害約500棟・被害総額は184億円から14億円に。また視察の受け入れは積極的に受け入れ、ブラジルの姉妹都市に防災技術協力を行っている。



今回の視察研修に参加をさせていただき、環境対策や防災・減災の必要性を感じた視察研修でした。



その他にも平成16年10月に発生した中越地震のメモリアル拠点『長岡アーカイブセンターさきおくみらい館』、『山古志村復興交流館おらたる』において現地の説明員の方より丁寧な話を聞きました。

○福井県あわら市 [HEECE構想] 事業

『あわら市』の概要

福井県の最北端の地あわら市は、平成16年に芦原町・金津町が合併し誕生、人口28,840人、世帯数10,038世帯と比較的上里町と同じ人口、農業と工業そしてあわら温泉を中心とする観光が基幹産業なっています。



- 健康 (Health)
- 教育 (Education)
- 環境 (Environment)
- コミュニティ (Community)
- 経済産業 (Economy)

とそれぞれの英単語の頭文字を並べてHEECE構想と名付け取り組んでいます。

北陸地方と言えば、雪の積雪量が多く、不便な日常生活を送っているものと想像していましたが、北陸地方の中でも比較的温暖で、積雪量は少なく、過ごしやすい環境ということです。



太陽をいっぱい浴びた農作物と海の幸、良質の温泉に恵まれた自然豊かなあわら市は、3世帯・2世帯家族が徐々に減り核家族が増加傾向にあり、健康に関しては特に食育に力を入れ、教育の原点は家庭にあると言う考えのもと5歳児の子ども園無料化・第3子以降の子ども園無料化・待機児童ゼロの状況となっています。

HEECE構想とは・・・

町の活力は、そこに集い、暮らす人々の活力に比例するとの市長の思いから“まち・ひと・しごと創生総合戦略”として [HEECE構想] 事業を策定し、人口減少に歯止めをかけようと、あわら市の目指す将来像は、“若い世代が住み、生み、育てたくなるまち”の実現に向け、

議会 トピックス



9 17・25・26 小中学校運動会 町内各小中学校

変わりやすい天候の中、生徒達は力いっぱいがんばりました。各地区の議員も応援に駆けつけました。

玉入れに議員も参加しました！

10 21・6 公民館・児童館まつり 各公民館・児童館

賀美・長幡・七本木（2日）、東・神保原（16日）において各地区の議員も参加させていただきました。

楽しい催し・イベントが盛りだくさんでした！



10 9 町民体育祭 堤調節地運動公園グラウンド

当日は、各種目に熱の入った応援が繰り広げられ会場を盛り上げていました。

上里町議会としてプラカードを持って開会式に臨みました！

11 13 消防団（署）特別点検 上里中学校校庭

有事のときに備えた日ごろの訓練の成果を披露しました。議員も点検に参加しています。

これから火災発生が特に多い時期です。火の元には十分注意しましょう！



11 14・15 児玉郡議会議長会視察研修会 石川県内灘町・金沢市

『新形式墓地他』『防災対策の取組み』として石川県内灘町と金沢市の行政視察を行いました。

金沢市大桑防災拠点広場整備事業の概要について金沢市危機管理課の皆さんにご説明頂きました。

追跡!

一般質問

問 広報誌をスマートフォン等に無料で配信するサービスを!

広報紙をスマートフォンなどに無料配信するサービスが全国に広がっています。町民以外でも広報かみさとを閲覧することが期待できるためぜひ導入を。

平成 27 年 3 月定例会 (平成 27 年 6 月号掲載)

議員の質問・提言に答える町執行部、その答弁がその後どうなったのか・・・どう町政に反映させているのか・・・対応を追跡します!

答 情報発信の1つのツールとして導入していきたい

町ではフェイスブックも使い、情報を広く発信していますが、情報発信の1つとして効果的と考え導入を検討したい。

どうなった?



アプリ内の広告について「マチイロ」は、無料で利用できるアプリですが、アプリ内に広告が表示されます、この広告はアプリ運営のためのもので、上里町との関係はありませんのでご了承ください。

ダウンロード方法

「マチイロ」のホームページもしくは、「広報かみさと」の表紙に掲載している、下記QRコードよりアクセスしてください。



スマホ用アプリ『マチイロ』で「広報かみさと」が配信・閲覧することができます!

平成 27 年 4 月より導入。この無料アプリをダウンロードし登録すると、広報の発効日にお知らせが届き、いつでもどこでもスマホやタブレットで広報を読むことができます。

※平成 28 年 11 月現在の登録者数は 131 人となっています。

平成28年度町村議会研修会

平成28年10月20日 吉見町「フレサよしみ」

これからの防災・危機管理

講師：防災システム研究所所長 山村武彦氏

講師に防災システム研究所長の山村武彦先生をお迎えし、近くは岩手県岩泉町水害、熊本地震、軽井沢スキーバス転落事故を始めと



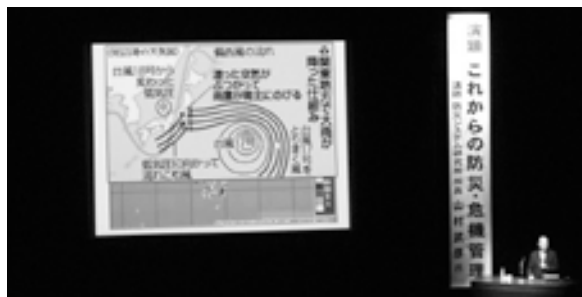
する国内外の事故や震災を現地調査し、その起こった事実から、自分達がどのように考え、行動することが生き残るすべなのかを解説し、考えさせていただきました。

震災には自助、共助、公助が大切な要素といろいろな場所で言われています。それに加えて近助（震災に会ったときは、遠くにいる親戚の

助けより、ご近所にいる人の助けの方が重要で、日頃からの協力体制が大切）という防災力を高めることが、生き残れることができる一番の方法であること。また、震災は今日、明日起こるかもしれないと準備（悲観的な準備：最低でも1週間の食料や水の準備）を周到にし、楽観的に生活することが生き残れることができる一番の方法であること。

世界で起こる地震の20%は、日本で起こっていること。最近、地震が起こる場所は、可能性の低いとされた地域（熊本県、鳥取県）で起こっていることから、“いつでも、どこでも起こる”という危機感を持ち、準備を怠らないことが生き残る、最善の方法である事を学ばせていただいた研修会でした。

岩田智教



議会日誌

9月

- 1日 関東大震災朝鮮人犠牲者慰霊祭
- 2日 定例会初日（開会、町長の行政報告、一般質問）
- 5日 一般質問
- 6日 全員協議会
- 6日 議案審議（条例、補正予算等）
- 7日 議案審議（決算総括説明、意見書報告、委員会付託）
- 8日 常任委員会(27年度決算審査)～20日
- 15日 議会運営委員会
- 17日 上里中学校運動会
- 21日 全員協議会
- 21日 定例会最終日(常任委員長決算審査報告・採決)
- 25日 各小学校運動会
- 26日 上里北中学校体育大会
- 27日 児玉郡市広域市町村圏組合議会

10月

- 2日 公民館・児童館まつり
- 9日 町民体育祭
- 16日 公民館・児童館まつり
- 20日 埼玉県町村議会議員研修会
- 20日 議会だより編集委員会
- 27日 総務経済常任委員会視察研修(～28日)

11月

- 3日 表彰式典
- 6日 ふれあいまつり
- 7日 文教厚生常任委員会視察研修(～8日)
- 11日 臨時会
- 11日 議会懇話会
- 13日 消防団(署)特別点検
- 14日 郡議会議長会視察研修(～15日)
- 16日 議会運営委員会
- 17日 議会だより編集委員会
- 21日 議会運営委員会視察研修会(～22日)

12月定例会を傍聴しませんか！

定例会は、12月5日(月)に開会の予定です。なお、一般質問は5日(月)、6(火)の2日間を予定しています。

12月定例会一般質問一覧

	氏名	質問の要旨
5日(月)	戸矢 隆光	①平成29年度事業について
		②区長と職員の連携について
	飯塚 賢治	①地域防災拠点について
		②コミュニティー・スクールについて
	沓澤 幸子	①魅力ある公園と健康づくりについて
		②貧困対策について
5日(月)	新井 實	①大規模災害の備えについて
		②「ご当地マンホール」について
		③文部科学省の「問題行動調査」について
		④全国学力テストが10年目を迎えたことについて
		⑤高齢者の雇用対策について
6日(火)	齊藤 崇	①堤調節池について
	仲井 静子	①地域防災体制の強化について

◆傍聴の手続きは簡単です◆

お問い合わせは議会事務局へ
電話 35-1216(直通)

3月定例会の一般質問は、2月下旬に町ホームページ・フェイスブック等に掲載しますので、ご確認ください。

この議会だよりが届くころには、師走を迎えます。上里スマートインターチェンジが開通し、1年が経過しようとしています。上里サービステリアの上り線側には、2社の企業が進出し操業が開始されています。更に、農村公園内には農産物直売場やレストラン、地元の特産物の販売店も計画されており、地元企業の進出が決定しています。また下り線側にも企業の進出が決定しており、ま

編・集・後・記



なく関連工事が始まるうとしていきます。この地域は、埼玉県内でも有望視されており、上里町民等の雇用の確保にもつながるものと期待されています。町民の皆様の「声」も頂き、更に読みやすく親しまれる「議会だより」を目指して参りたいと思っております。今後とも、よろしくお願ひします。

議会だより編集委員会
委員長 新井 實
副委員長 仲井 静子
委員 植原 育雄
委員 岩田 智教
委員 齊藤 隆光

議会を傍聴！

上里町議会では、皆さんの傍聴をお待ちしております。議会開催日に役場4F傍聴受付窓口までお越しください。

議会を動画で！

本会議の一般質問の様子をインターネットで録画配信しています。また、本会議開催中は、役場1階町民ホールのテレビで生中継しています。

議会を読む！

「上里町議会だより」は、3月、6月、9月、12月の年4回発行しています。

